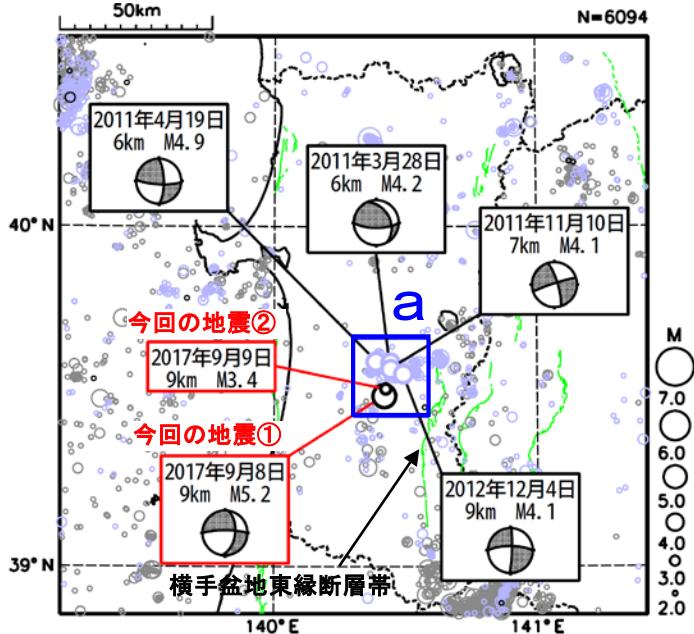


9月8日、9日 秋田県内陸南部の地震

震央分布図

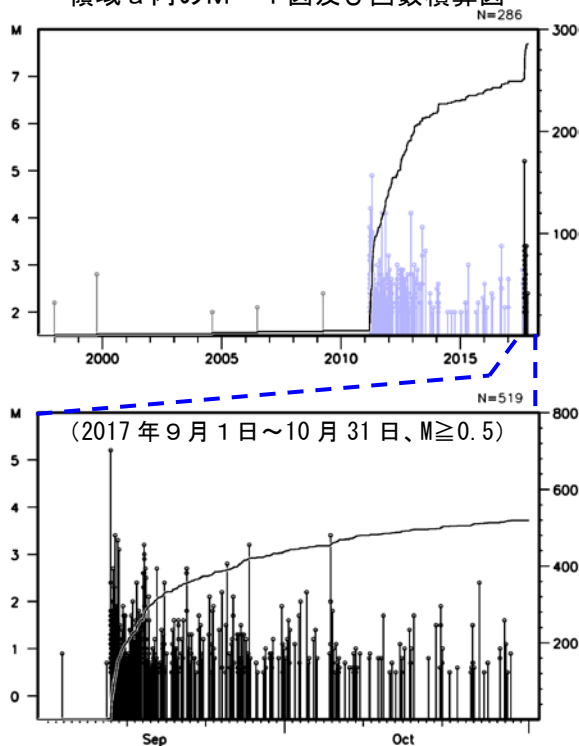
(1997年10月1日～2017年10月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)

東北地方太平洋沖地震より前に発生した地震を薄い○、
東北地方太平洋沖地震発生以降に発生した地震を○、
2017年9月以降の地震を濃い○で表示



図中の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図

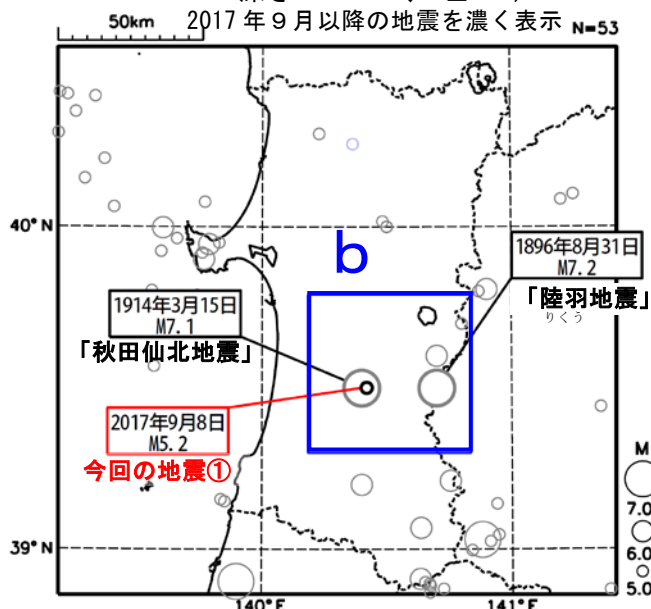


2017年9月8日22時23分に秋田県内陸南部の深さ9kmで $M 5.2$ の地震 (最大震度5強、今回の地震①) が発生した。この地震により、住家一部損壊4棟の被害が生じた (総務省消防庁による)。また翌9日11時42分にもほぼ同じ場所で $M 3.4$ の地震 (最大震度4、今回の地震②) が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。地震①は発震機構が北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。地震①の発生以降まとまった地震活動がみられており、領域 a 内では最大震度1以上を観測する地震が10月31日までに54回 (震度5強: 1回、震度4: 1回、震度3: 2回、震度2: 13回、震度1: 37回) 発生している。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域 a) では、「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」 (以下、東北地方太平洋沖地震) の発生以降に活動が活発化しており、今回の地震①が最大規模の地震であった。

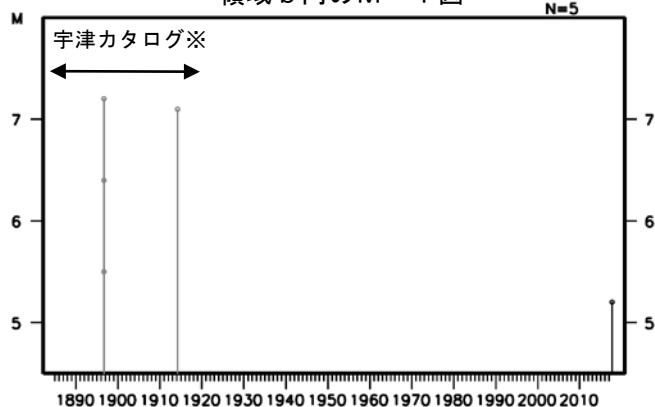
震央分布図

(1885年1月1日～2017年10月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 5.0$)



1885年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 b) では、1914年3月15日に「秋田仙北地震 (強首地震とも呼ばれる)」 ($M 7.1$) が発生し、死者94人、負傷者324人、住家全壊640棟等の被害が生じる (被害は「日本被害地震総覧」による) など、 $M 7.0$ を超える地震が2回発生している。

領域 b 内の M-T 図



※宇津 (1982, 1985 など) による 気象庁作成